

40 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(11) 伝統文化(4) —水神祭—

29期 仲田 元昭

江戸時代より続く伝統行事、毎年4月3日に船橋漁港で行われる、海の安全と豊漁を祈願する「水神祭」についてご案内します。

「船橋の伝統行事」

船橋は、都市近郊でありながら江戸時代より続く市指定無形民俗文化財の「神楽」「梯子乗りと木遣り歌」「大仏追善供養」今回ご案内する「水神祭」次回ご案内予定の徳川家康公もご覧になった400年続く「奉納相撲」等地元小学生も行事に参加している伝統行事を、今でも大切に継承し続けている良き伝統文化を持っている街です。

「水神祭の神事内容」

水神祭は、海の安全と豊漁を祈願する行事として江戸時代より行われてきました。冬の漁の終わりと春の漁の始まりを告げる、節目の行事として重要な意味を持ちます。近年、新型コロナウイルス感染症の流行により、漁業関係者のみで行われましたが、令和5年3年ぶりに多くの参加者を招いて開催されました。

漁港に接岸された漁船の上で、船橋大神宮の宮司が奏でる雅楽と言う楽器に合わせ四座の舞「船橋大神宮の神楽、巫女舞（舞台を清める）、猿田舞（天狗の面をつけ神様を案内する）、恵比寿舞（恵比寿は漁村の福の神、日本最古の踊り子）、山上舞（青鬼悪さをして山神様が追い払うストーリー）」の奉納や玉串奉奠等の神事や餅まきが行われます。

最後は漁船が大漁旗を掲げ、沖合へ向かい、神前に奉納した五穀（米・麦・粟・ひえ・大豆）の種を海にまき、漁の安全と豊漁を祈願する行事です。



巫女舞（舞台を清める舞）



猿田舞（神様をご案内する舞）



恵比寿舞（恵比寿は漁村の福の神）

（参考資料：広報ふなばし（2023年）、船橋市漁業協同組合資料、写真提供：ガイド仲間 渡辺優子氏）

「41 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(12)に続く」「2024-3-1 寄稿」